

第14回廃炉・汚染水対策現地調整会議の概要

1. 日程

日時:平成26年10月27日(月) 12:30~15:30

場所:いわき市生涯学習プラザ 4階 大会議室

2. メンバー

政府: (議長):高木原子力災害現地対策本部長(経済産業副大臣)

原子力災害現地対策本部:後藤副本部長

復興庁:豊島次長(福島復興局)

文部科学省:西田放射性廃棄物企画室長

農林水産省:安岡研究調整官(代理)

農林水産省水産庁:中津研究指導課長

国土交通省:五十嵐河川環境課長

環境省:大村水環境課長(代理)

廃炉・汚染水対策チーム:糟谷事務局長補佐、吉田事務局長補佐、

江口対策官、豊口企画官、三木アドバイザー

廃炉・汚染水対策現地事務所:木野参事官、遠藤調整官、

岡山対策官、小野対策官、有賀対策官

東京電力:石崎福島復興本社代表、増田廃炉推進カンパニープレジデント、有馬バイスプレジデント、白川福島第一原子力発電所ユニット所長

福島県(オブザーバー):玉根生活環境部次長

規制当局(原子力規制庁):山田審議官、持丸地域統括管理官

3. 結果概要

(1) 議長冒頭挨拶

○本日も御多忙の中、お集まりいただき感謝。

○引き続き現場においてはタイトな工程の中作業が進められているが、先日は2つの大きな台風の来襲を立て続けに受けたが、大量の降雨を受けてもタンクエリアからの逸水を発生させなかったことは、今年の台風以降、着実に設備を整えしっかりと体制を確立し臨んでいただいた関係者の尽力の賜だと思っており、こうした効果を情報発信していくことも重要と考えている。

○このような一つ一つの対応と、その情報発信が、対策に対する関係者の理解を促進し、国

内外の方々に安心していただく上で最善の方法であると考えて。引き続き一丸となって確実な取組をいっしょにやっていただきたい。

○そのため、タンク堰のかさ上げ、雨どい、堰カバーなど、これまでの対策の効果を含め、台風時における対応等について報告いただきたい。

○一方、台風後、海側の井戸、1号機放水路でセシウム濃度が最高値を更新し、またいくつかのサブドレンピットからも高濃度の放射性セシウムが検出されており、この件についても報告いただきたい。

○現地調整会議では、前回から汚染水対策の議論にとどまらず、地元にとって関心の高い重要な事項についても議論することとしたが、今回も引き続き、「1号機建屋カバーの解体工事」等について報告いただきたい。

○多核種除去設備（ALPS）は、B系統における不具合とその対応について説明を受けるとともに、増設および高性能ALPSのホット試験を開始したことについて報告を受ける予定である。

○海水配管トレンチについては、間詰め充てん工事の進捗状況や、汚染水を除去しながら充填する手法の検討状況について報告を受け、今後の対策のあり方についてご議論をいただきたい。

○サブドレンについては、浄化設備の性能を確認するためのホット試験の分析結果について報告を受けるとともに、漁業者を始めとした関係者に対し丁寧に説明している状況等について、報告を受ける予定。

○タンクの設置等については、タンク容量と貯蔵量のバランスに関するシミュレーションや、タンク増設の進捗状況等について報告を受け、議論を行いたい。

○その他、HTI建屋接続トレンチの止水対策、凍土遮水壁、海底土の被覆等についても進捗状況等の報告を受ける予定である。

○本日も、活発な御意見、徹底した議論をお願いしたい。

(2)会議概要(主な指摘事項)

議題1

<資料1-1>

- 雨水が建屋内に直接入り滞留水が増加していることの対策はどのように考えているのか。天井の穴を塞ぐこと等が必要とされるが、線量が高く被ばくリスクが伴うもの。抑制効果と作業自体の被ばくリスクについて整理し次回報告すること。

- 漁業者は地下水バイパスの稼働を注視しているところだが、揚水井N o 1 1 が揚水停止したとなると不安をかきたてられるので、よく原因を調査し不安を解消に努めて欲しい。
- 1号機放水路のモバイル浄化装置による浄化は早急に開始すべき。スケジュールを作って次回に示すこと。

議題2

<資料1-2-1、1-2-2>

- 1号機カバー解体時のダストの巻き上がりは、通常は空高く舞い上がることはなく横に拡散しながら流れるので、建屋の横方向に建屋と同じ高さレベルで設置されたモニタリングポストでキャッチできると説明があったが、次回その根拠となるデータを示すこと。
- カバー解体についてはリアルタイムに県民に情報提供するような工夫をすべき。
- 多核種除去設備については、本格稼働に向けたスケジュールを示すこと。増設では既設での問題点を改善済みであることから、既設より増設が先に本格稼働しても良い。本格稼働可能なものから稼働させるべき。

議題3

<資料2>

- 建屋毎の流入経路を確認・整理するとともに周辺の地下水位と建屋内の水位の管理方法や対策手順を議論するための準備を進めるべき。
- 廃炉・汚染水対策は着実に進捗しているのに、一般の人にはそれがほとんど伝わっていない。目に見えて変化がわかる進捗をビフォー&アフターの写真を並べて示すなど広報のあり方を検討すべき。
- タンク計画に遅れが生じないように、リカバリーを期待したい。
- 海への流出量の改善の説明方法を検討して欲しい。

その他

- 敷地内で発生するガレキなど放射性廃棄物の処分や、オイル漏れなど起こしている重機のメンテナンスなどの課題について、次回からに議論することとしたい。

(3)次回以降の日程

○次回は11月開催。詳細の日程は決定次第、事務方より連絡。

(以上)